

- 1 開催日時：令和8年2月16日（月）13：40～15：00
- 2 開催会場：みよし市立緑丘小学校 校長室
- 3 参加者：学校運営協議会委員、学校代表、市担当者等（計12名）

【学校運営協議会委員】

会長 三ツ本 隆様（地域学校協働推進委員） 三宅 敬子様（地域学校協働推進委員）
副会長 河北 圭一郎様（地域学校協働推進委員） 林 剛様（地域学校協働推進委員）
松井 志夫様（三好丘緑行政区長） 岡部 敏和様（三好丘桜行政区長）
伊藤 正彦様（ひばりヶ丘行政区長） 高橋 小夜子様（現PTA会長）
上田 光宣様（前PTA会長）（欠席）

【学校代表】 校長 黒田 和秀 教頭 前川 直子

【市担当者等】 学校教育課 山内 陽二様、鈴木 啓太様

4 日程

- (1) 授業参観：13：40～14：00
- (2) 協議会：14：00～15：00

- ・学校経営について（校長）
- ・協議、承認

5 協議内容等の報告

(1) 学校経営について（別紙「令和7年度第3回学校運営協議会資料」参照）

○今年度の重点と行事計画（子どもの主体性を生かした取組）

- ・インフルエンザ流行は収束傾向。教職員の体調も回復し、卒業式に向けて準備が順調に進行。
- ・子どもの力、地域の力を生かした主な取組（学年別）

1年：校外学習（鞍ヶ池公園）、保育園児との交流で“お兄さん・お姉さん”としての自覚育成

2年：校外学習（東山動物園）、伝承遊び（あやとり・コマ・けん玉）

3年：企業・消防署等の見学（カルビーの食育、放水・煙体験、トラック搭乗体験、柿芋収穫等）

4年：SDGsに基づく地域のごみ調査、トヨタ見学、百人一首、タグラグビー、防災課による避難所体験

5年：米作り（田植え～稲刈り～藁のしめ縄～おはぎ会）を通年で体験

6年：大学連携のプログラミング体験、明治村見学、給食無償化特集でのTV取材対応、避難訓練の全校リード

行事等：防災教育（6年生主導）

- ・第2回（掃除時間想定）・第3回（授業中の地震想定）の避難訓練を6年生が事前指導から当日のリード、訓練後の振り返りまで実施。
- ・6年児童から、「避難訓練は0点か100点」の基準を全校で共有し、規範意識を醸成。

縦割り・委員会活動の活性化

- ・体育キャンペーン（学年ペアでのミニゲーム）、リサイクル工作（環境美化）、グリーンボランティア、給食ビンゴ（食育）、図書福袋（貸出促進）などを継続実施

合唱活動

- ・全校で協働の姿勢を育み、低学年の元気な歌声と高学年の丁寧な表現が共存する良好な発表

・道徳教育（推進校指定）

- ア) 研究報告を作成。毎週水曜の「にこトレ」で対話ルール（嫌なことを言わない、終わりに感謝を伝える等）と協働を訓練し、授業内のペア・グループ活動へ波及
- イ) 親子道徳・地域連携の活動も実施
- ウ) 外部視察にて、2年・5年授業で、積極的発言、相互受容の対話、制作時の集中などを高評価
- エ) 11月27日に愛知県教育委員会や他の推進校校長等が来校

・課題と来年度の重点

- ア) 地域参画が一部の方に偏在、来校・見学の裾野拡大が必要。取組の継続可能性の確保も重要
- イ) 来年度方針（令和8年度）：今年度の取組を学年の実態に合わせてブラッシュアップ。地域の力を生かした学びを深化。道徳教育・規範意識・挨拶の強化に注力。

○学校評価アンケート結果の分析

・教職員アンケート

- ・全体として「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」の合計は概ね良好
- ・「教育目標」に関する理解が13.8ポイント低下。グランドデザインの再浸透や、道徳と行事の設計調整に迷いがあったと自己認識
- ・別途の道徳研究アンケートでは授業実施への自信が向上。来年度の改善に期待

・児童アンケート

- ・約9割超で肯定的回答が多数。未充足層の把握と手だてをさらに強化
- ・大きなけがは比較的少数
- ・学習の振り返り「みどりのいっほ」を紙からタブレットへ移行し、相互閲覧の機会を設定
- ・自然な対話・協働が進むよう、授業改善と教員研修を継続

・保護者アンケート

- ・回収率をオンライン+実施報告提出方式で97%まで改善（昨年度は約70%）。
- ・言葉遣い・身の回りの片付け等の課題で教員認識と整合。厳しい意見も真摯に受け止め、改善に活用
- ・自由記述（13ページ以降）を全件掲載。Web公開時は分かりやすく精選予定

○正課クラブについて

- ・実施回数は10回。クラブは全9種（新設：ストレッチ&ボッチャ/将棋は終了）
- ・児童の満足度は高く、未経験領域への挑戦や講師の丁寧な支援に好意的評価
- ・児童からの「次にやりたいこと」（レベルアップ等）は、講師へ共有済、担当教員の振り返りも収集
- ・来年度計画（令和8年度）：児童数は微減、現行9クラブを継続し、全9回の実施予定、定員配分は児童希望と講師意見を踏まえ最適化

（2）協議内容 ○：評価できる内容 △：気を付ける点、今後の課題やアイデア

△みどりっ子フェスタ（学校発表会）の形式

- ・体育館での一斉発表は保護者（複数児童）の移動負担軽減の利点。一方、教室分散は近距離観覧・発表機会の増加・全員へのスポットを実現。
- ・学校の意向：「全員が活躍できる場」を重視し、来年度も概ね今年度形式を継続。ただし保護者向け周知の工夫を強化。

- ・提案：事前メールや当日アナウンスで実施意図を説明。必要に応じハイブリッド（部分的な全体発表）も検討。

△地域参画の拡大

- ・地域の方の授業見学日を定期開催（年3回程度から開始）。学校運営協議会の開催時期と連動させると運用効率化に有効。
- ・行政区の回覧等で広報し、来校ハードルを低減。常時の来校ではなく、定期スケジュール提示で参加機会を明確化。
- ・行事との連動：運動会に地域参加種目（例：玉入れ）を設け、来校のきっかけづくり。食育では給食時間の廊下見学など衛生に配慮した形を検討。
- ・募集広報：既参加者のポジティブ体験をPRし、初参加の心理的負担を軽減。口コミ拡散を意図的に促進。

○熱中症対策・動線の見直し

- ・全校が屋外で長時間待機する場面は二段階運用と屋根下待機に変更し、安全性を確保。

○道徳教育の理解促進

- ・子ども主体で心の成長を促す道徳の実践（縦割り活動等）を、保護者・地域にも平易な言葉で周知し、誤解を解消。

△保護者との協働

- ・厳しい意見に対して教職員が委縮せずに対話を継続。保護者同士のつながりづくりを学校が後押しし、共育の基盤を強化。

決定

- ・来年度のみどりっ子フェスタは、今年度の教室分散型を基本に継続する方針
- ・正課クラブは9クラブ構成を維持し、全9回で実施する計画
- ・来年度重点として、地域連携拡大、道徳・規範意識と挨拶の強化、既存取組のブラッシュアップを継続

検討事項

- ・地域参画が一部の常連に偏在し、裾野拡大が未達
- ・教育目標、グランドデザインの浸透不足により、施策間の連動が弱まるリスク
- ・行事形式に対する受け止めの多様性と説明不足による不満の発生
- ・みどりっ子フェスタの運営において、複数兄弟在籍の保護者の観覧動線や時間制約の課題
- ・厳しい保護者コメントにより教職員が委縮し、改善のための挑戦が鈍る懸念
- ・暑熱環境下の全校待機に伴う安全リスク

対応事項案

- ・みどりっ子フェスタの実施意図と観覧上の配慮を事前周知（メール・当日案内）する
- ・みどりっ子フェスタのハイブリッド案（教室＋全体発表の組み合わせ）の可否を検討し、案を作成する
- ・ボランティア参加者の体験談を収集・編集し、募集案内と併せて発信する
- ・運動会への地域参加種目（例：玉入れ）の導入案を作成し、安全・時間配分を検討する
- ・地域の方の参観や食育の一環として給食見学（廊下から）の実施可否と衛生面の配慮事項を整理する
- ・地域向け授業見学デーを年3回の目安で企画し、行政区回覧で周知する